

COSMETIC

Publication Number: 04-173724 (JP 4173724 A) , June 22, 1992

Inventors:

- OGINO KAZUO
- TSUJIMURA NORIKO
- OKUYAMA GENICHIRO

Applicants

- KANEBO LTD (A Japanese Company or Corporation), JP (Japan)

Application Number: 02-301452 (JP 90301452) , November 06, 1990

International Class (IPC Edition 5):

- A61K-007/13
- A61K-007/00
- A61K-007/02
- C11B-011/00

JAPIO Class:

- 14.4 (ORGANIC CHEMISTRY--- Medicine)
- 14.6 (ORGANIC CHEMISTRY--- Liquid Fuel, Oils & Fats)

Abstract:

PURPOSE: To obtain a cosmetic, excellent in heat resistance, light fastness and skin stability, good in color tone and coloring without any feeling of roughness, etc., having excellent touch without any irritation by blending a silver hydrosol which is a dispersion prepared by dispersing silver in an ultrafine particulate state in water.

CONSTITUTION: A cosmetic containing a silver hydrosol prepared by treating, e.g. an aqueous solution of a silver salt such as silver nitrate as a raw material with a reducing agent of an aqueous solution such as sodium boron hydride, sodium citrate or ascorbic acid. The cosmetic is excellent in heat resistance, light fastness and skin stability. The aforementioned cosmetic is excellent in color tone and coloring properties and good in preservation stability without any skin irritation, carcinogenicity, etc., with high safety for the skin. The above-mentioned cosmetic can be applied to lotions, milky lotions, creams, packs, soaps, etc. (From: *Patent Abstracts of Japan*, Section: C, Section No. 991, Vol. 16, No. 473, Pg. 130, October 02, 1992)

JAPIO

© 2004 Japan Patent Information Organization. All rights reserved.
Dialog® File Number 347 Accession Number 3808624

⑯ 公開特許公報 (A)

平4-173724

⑯ Int. Cl.⁵A 61 K 7/13
7/00
7/02
C 11 B 11/00

識別記号

府内整理番号

⑬ 公開 平成4年(1992)6月22日

J

7038-4C
9051-4C
9051-4C
2115-4H

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 5 頁)

⑭ 発明の名称 化粧料

⑮ 特願 平2-301452

⑯ 出願 平2(1990)11月6日

⑰ 発明者 萩野 和男 東京都町田市原町田1丁目13番1-506号
 ⑰ 発明者 辻村 典子 神奈川県川崎市麻生区王禅寺2423-113
 ⑰ 発明者 奥山 源一郎 神奈川県小田原市中曾根202
 ⑰ 出願人 鐘紡株式会社 東京都墨田区墨田5丁目17番4号

明細書

1. 発明の名称

化粧料

2. 特許請求の範囲

銀ヒドロゾルを含有することを特徴とする化粧料。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、銀ヒドロゾルを含有した、耐熱性、耐光性、皮膚安定性に優れた化粧料に関する。

(従来技術および発明が解決しようとする課題)

従来、化粧料そのものを美しく見せるために、又、皮膚や毛髪を着色する目的で無機顔料、タル系色素、天然色素などの着色剤を配合した化粧料が提供されている。これらの着色剤に求められる特性としては、

1. 色味が良く、発色性に優れる事
2. 耐熱性、耐光性等安定性の良い事
3. 皮膚に刺激を与えない等安全性に優れる事
4. 着色材が豊富にあり入手しやすい事

等が挙げられている。

しかし、化粧料として汎用される黄系着色剤について見た場合、これ等全てを満足した着色剤は得られていなかった。

即ち、黄系無機顔料である黄色酸化鉄等は、バウダーファンデーションやバウダーアイシャドウなどの粉体化粧料や口紅等へは配合可能であるが、化粧水中では沈降してしまい、着色剤として用いることができず、クリーム、乳液等の着色剤として用いた場合、顔料が沈降、分離しやすいと同時に肌に塗布したときにザラつき等を感じるという欠点を有するものであった。黄系タル色素を配合した化粧料は、保存安定性に劣ったり、感作性、発ガン性等の問題があつたりする。

また、最近の天然志向により、ベニバナ色素、クチナシ色素等の天然色素を配合した化粧料も提案されているが、これらの色素は高価で入手しにくいと同時に、これらの色素を配合した化粧料は、熱や光で変色しやすいという欠点を有していた。

本発明の目的は、色味や発色性が良く、耐熱性、

耐光性などの保存安定性に優れ、皮膚刺激性、感作性、発ガン性などなく皮膚安全性の高い化粧料を提供するにある。

(課題を解決するための手段)

本発明は、銀ヒドロゾルを含有することを特徴とする化粧料である。

本発明に用いられる銀ヒドロゾルは、銀を超微粒子状態で水中に分散した液であるが、硝酸銀等の銀塩水溶液を原料とし、これを水素化ホウ素ナトリウム、クエン酸ナトリウム、アスコルビン酸等の水溶性還元剤で処理する公知の方法で得られる。

本発明における銀ヒドロゾル中の銀微粒子の濃度は0.001～0.1重量%の範囲が好ましい。

0.001重量%より少ないと色調が美しく、安定な銀ヒドロゾルを得にくいからである。

本発明における化粧料中の銀ヒドロゾルの配合量は特に限定されないが、他の必要成分を配合することを考慮すると、0.1～9.9重量%の範囲が

適当である。なお、この場合、化粧料中の銀微粒子の配合量が0.0001～0.099重量%の範囲となるように銀ヒドロゾルを配合することが好ましい。0.0001重量%より少ないと十分な着色性が得られず、0.099重量%より多いと色が濃すぎる為に美しい外観を与えることができないからである。

本発明の化粧料には、保湿剤、水溶性高分子、界面活性剤、水、油、ワックス、香料、着色剤、防腐剤、酸化防止剤、殺菌剤、アミノ酸、ビタミン、ホルモン、紫外線吸収剤等通常化粧品に用いられる成分を適宜配合する事ができる。

本発明の化粧料は、ローション類、乳液類、クリーム類、パック類、石鹼類等に適用される。例えば、スキンクリーム、スキンミルク、クレンジングクリーム、クレンジングミルク、コールドクリーム、クリームソープ、マイクアップベース、スキンローション、ミルキィローション、パック、カラミンローション、トゾーンエッセンス、ハンドクリーム、固体石鹼、透明石鹼、栄養エッセン

ス、クリーミィファンデーション、ネイルリムーバー、ヘアートニック、ヘアーリキッド、ヘアークリーム、ヘアートリートメント、スカルプトリートメント、シャンプー、リンス、ヘアースプレー、サンオイル、サンスクリーン、シェーピングフォーム、シェーピングクリーム等が挙げられる。

(実施例)

以下、実施例を挙げて本発明を具体的に説明する。

なお、本発明において、化粧料の評価試験として官能試験、耐光性試験、耐熱性試験をつぎのようにして行った。

(1) 官能試験

専門検査員20名が試験を行ない、下記項目のアンケートに回答した。

① 使用感

化粧料を塗布後、ザラつき等を感じず、肌なじみが良いと答えた人數。

② 外観

化粧料を見たときの色味が良いと答えた人數。

③ 刺激

使用後、皮膚(頭皮)に刺激を感じたと答えた人數。

(2) 耐光性試験

試料を透明な容器に入れ、30日間太陽光に曝露する。これを冷暗所に保存した同一の試料と比較し、色の変化のない場合を○、変化のある場合を×とした。

(3) 耐熱性試験

試料を45℃で3ヶ月間保存し、これを冷暗所に保存した同一の試料と比較し、色の変化のない場合を○、変化のある場合を×とした。

(銀ヒドロゾルの製造例1)

硝酸銀340mgを純水100mlに溶解した。この硝酸銀水溶液25mlに純水915mlを加え、攪拌下に水素化ホウ素ナトリウム75.7mg/50ml水溶液50mlを注入して10分間攪拌後放置することによって銀ヒドロゾルを得た。

こうして得られた銀ヒドロゾルの銀微粒子濃度は0.0054重量%であった。

実施例 1

第 1 表の如き配合の原料を均一に混合することにより、本発明の黄色のスキンローションを得て、前記諸試験を行った。このローション中の銀微粒子の配合量は 0.00027 重量% であった。

第 1 表

原 料	配合量 (wt%)
グリセリン	5.0
エチルアルコール	2.0
精製水	88.0
製造例 1 の銀ヒドロゾル	5.0

その特性を第 7 表に示す。第 7 表から明かなる如く、本発明のスキンローションは、外観の色味がよく、肌なじみに優れ、刺激がなく、耐光性試験、耐熱性試験でも色調に変化がなく安定性の高いものであった。

比較例 1

第 2 表の如き配合の原料を均一に混合することにより、比較の黄色のスキンローションを得て、

く、製造例 1 の銀ヒドロゾルに代えて紅花色素溶液を用いたスキンローションは、外観の色味が悪く、耐光性、耐熱性といった安定性に劣るものであった。

実施例 2

第 3 表の如き配合量の原料によりスキンクリームを製造した。まず、油相成分を 80℃ で均一に加熱溶解し、これに同じく 80℃ で均一に加熱溶解した水相成分を加え、攪拌しながら 30℃ まで冷却し、本発明の黄色のスキンクリームを得て、前記諸試験を行った。

(以 下 省略)

前記諸試験を行った。

第 2 表

原 料	配合量 (wt%)
グリセリン	5.0
エチルアルコール	2.0
精製水	92.99995
黄色 5 号	0.00005

その特性を第 7 表に示す。第 7 表から明かなる如く、製造例 1 の銀ヒドロゾルに代えて黄色 5 号を用いたスキンローションは、耐光性、耐熱性といった安定性に劣るものであった。

比較例 2

紅花乾燥花弁 100g を 1L の水に 1 時間浸せきした後ろ過し、黄色の紅花色素溶液 1L を得た。

製造例 1 の銀ヒドロゾルに代えて、上記で得られた紅花色素溶液を使用する他は実施例 1 と同様にして比較の黄色のスキンローションを得て、前記諸試験を行った。

その特性を第 7 表に示す。第 7 表から明かなる如

第 3 表

原 料	配合量 (wt%)
(油 相)	
流動バラフィン	20.0
セチルアルコール	5.0
ポリオキシエチレンソルビタンモノオレエート (20E.O.)	10.0
(水 相)	
マルチホール	5.0
精製水	57.8
メチルパラベン	0.2
製造例 1 の銀ヒドロゾル	2.0

その特性を第 7 表に示す。第 7 表から明かなる如く、本発明のスキンクリームは、外観の色味がよく、肌なじみに優れ、刺激がなく、耐光性試験、耐熱性試験でも色調に変化がなく安定性の高いものであった。

比較例 3

製造例 1 の銀ヒドロゾルに代えて、黄色酸化鉄を使用する他は実施例 4 と同様にして比較の黄色

第 4 表

原 料	配合量 (wt%)
(油 相)	
ステアリン酸	1.5
セチルアルコール	3.0
コレステリン	0.5
グリセリンモノステアレート	1.0
ポリオキシエチレンソルビタンモノオレエート (20E.O.)	5.0
ミリスチン酸オクチルドデシル	10.0
(水 相)	
精製水	68.5
メチルバラベン	0.2
製造例1の銀ヒドロゾル	10.0

のスキンクリームを得て、前記諸試験を行った。
その特性を第7表に示す。第7表から明かな如く、製造例1の銀ヒドロゾルに代えて、黄色酸化鉄を使用したスキンクリームは外観の色味、肌なじみが悪く、ザラつき等を感じて好ましくなかった。

実施例3

第4表の如き配合の原料により、実施例4と同様にして本発明の黄色のスキンミルクを得て、前記諸試験を行った。

(以 下 省略)

その特性を第7表に示す。第7表から明かな如く、本発明のスキンミルクの各種特性は優れたものであった。

実施例4

第5表の如き配合の原料を均一に混合攪拌することにより、本発明の黄色のシャンプーを得て、

前記諸試験を行った。

第 5 表

原 料	配合量 (wt%)
ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウム	8.0
N-ラウリルN-カルボキシメチル-N-ヒドロキシルイミダゾリニウムベタイン	27.0
1,3-アブチレングリコール	2.0
デヒドロ酢酸ナトリウム	0.2
カチオン化セルロース	0.1
精製水	32.7
製造例1の銀ヒドロゾル	30.0

その特性を第7表に示す。第7表から明かな如く、本発明のシャンプーの各種特性は優れたものであった。

実施例5

第6表の如き配合の原料を均一に混合攪拌することにより、本発明の黄色のリンスを得て、前記諸試験を行った。

(以 下 省略)

第 6 表

原 料	配合量 (wt%)
ポリオキシエチレンステアリルエーテル (2E.O.)	2.0
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	4.0
セチルアルコール	3.0
オクチルドデカノール	1.0
グリセリン	2.0
メチルバラベン	0.1
クエン酸	0.05
精製水	82.85
製造例1の銀ヒドロゾル	5.0

その特性を第7表に示す。第7表から明かな如く、本発明のリンスの各種特性は優れたものであった。

(以 下 省略)

第 7 表

		実 施 例					比 較 例		
		1	2	3	4	5	1	2	3
官能試験	使 用 感	19	20	19	18	18	18	17	4
	外 観	18	18	20	19	18	17	6	1
	刺 激	0	0	0	0	0	0	0	0
耐 光 性 試 験		○	○	○	○	○	×	×	○
耐 热 性 試 験		○	○	○	○	○	×	×	○

(発明の効果)

以上の如く、本発明は色味や発色が良く、耐熱性、耐光性等の安定性に優れ、ザラつき等を感じず、優れた感触を有し、皮膚刺激性がない優れた有用なる化粧料を提供することは明かである。

特許出願人 雜誌株式会社

